

中学生の柱本翔夢伊が公式戦デビュー！

3期生の柱本翔夢伊（15）が、公式戦のレースデビューを果たしました。柱本は11歳から当スクール車両であるS-FJでの練習を始め、遂にこれが自身初のデビューレースとなります。

また1980年から開催されているFJ1600からの46年の歴史で史上初めて中学生ドライバーがレースデビューを果たすことになり注目が集まりました。

金曜日のフリー走行では翌日の予選に向けたシミュレーションのためニュータイヤを装着して走行しました。柱本にとって人生初めてのニュータイヤでの走行で、始めは苦戦した様子でしたが次第にタイヤの限界値で走ることができるようになりました。

土曜日の予選が始まります。柱本は他とは違う戦略を取り、全車コースインしてから時間をずらしてコースへと入っていきました。タイヤのウォームアップを終えアタックラップへと入っていきました。セクター1を全体ベストでクリアし速さを見せていましたが、赤旗が振られセッションが中断されてしまいこのアタックラップは幻となってしまいます。再開後もタイムアタックを試みたものの、最後までラップを纏め切ることができず6番手で初めての予選を終えました。予選終了後に走行データを見直すと、柱本のセクタータイムを纏めれば、この日ポールポジションを獲得したチームメイトの小野原と同等のタイムを記録できることがわかり速さは確認することができました。

日曜日の決勝がいよいよ始まります。レース前の柱本は非常に緊張した様子でした。グリッドに整列し、夢にまで見た光景が広がります。シグナルが消えレースがスタート。デビュー戦とは思えない素晴らしいスタートを決め、2台を交わし1コーナーへと入っていきました。デグナーカーブ1つ目で前の選手に並びかけるも、これがタイムロスする形となり続くコーナーで後方の選手に抜かれてしまいました。オープニングラップを8番手で終えレースが進んでいきます。ここから追いつきが期待されましたが、4周目にマシンが急にスロウダウンしてしまいます。このタイミングでオイル処理のため赤旗となり全車グリッドへ整列しました。柱本も何とか自走でグリッドへたどり着きましたが、電気系のトラブルにより再スタートができず、そのままだりタイヤとなってしまいました。

デビューレースは悔しい結果となりましたが、今回の経験は柱本を強くさせる機会になったと思います。すでに彼の目は次戦を見据えています。

